



一般社団法人プレイキッズシアター代表
子ども創作舞台演出家・脚本家
むらまつひろこさん

練馬のママとしてはじめての活動が次第に実を結び、今は全国へ

子どもたちが「じぶん」を表現できる場を作りたい



一般社団法人プレイキッズシアターは「表現あそびをベースにしたワークショップ」「創作舞台」「講演会」の3つを軸にした活動を行なっています。

舞台を通じた表現教育の場に立ち15年全国で出会った子どもたちは3万人を超えます。

きっかけは公園での親子の交流から

元々は、子どもたちの表現教育の活動と共に、オペラやミュージカルの演出家もしていました。そんななか妊娠がわかり、子どもの表現教育の仕事のみを続けていくと決意しました。演出家としての活動も続けたのですが、夜稽古や長期プロジェクトなど、子育てと舞台の両立は難しい状況でした。

その後、娘を出産。しかし保育園に入園まもなく娘が入院することになってしまいました。周りからは「今が頑張り時だよ」と言われましたが、その言葉もしんどく感じ、自分のアイデンティティがどこにあるんだらうと考えるようになりました。そこで思い切って保育園をやめ、一日中娘と遊ぶようにしました。おにぎりを持って朝からずっと公園にいきましたね。そこで自然とママたちとの交流が深まり「子どもたちのために私ができることはないかな」「地元練馬に還元できるような何かを」と考えるようになったのがそもそものきっかけです。

これまで携わってきた表現教育の経験を

活かし「親子で表現あそびができるワークショップ」を開催してみようと考え、区内の公園でチラシを配りながらPRしていました。地道な活動を続けていくと、賛同してくれる仲間たちが増えていきました。

活動が全国へ広がり映画化も

2020年に「プレイキッズシアター」に名称を変え、2022年3月に一般社団法人として新たなスタートを切りました。参加してくれた保護者の方が「自分たちの地域でもこの活動を広げたい」と各地で団体を立ち上げてくれたんです。元々自分ひとりでずっとやってきた活動だったので、当初は自分の手から離れることに不安を感じることもありましたが、でも信頼して託していくことで、任された人の意識改革にもなり、団体としての価値がより上がっていくことを学びました。2019年には舞台ができるまでのプロセスを記録したドキュメンタリー映画が制作され、仙台や福井でも上映されました。活動の種まきが次第に実を結び、全国へ広がっていくことに感謝しています。

意外と知られていない表現教育

子どもたちがゼロから作る舞台制作やワークショップでは、それぞれがアイデアを出し合いみんなで耳を傾けます。どんな作品になるかはわからないけれど、まずはみんなやってみる。すると、発言者は自分のアイデアがカタチになり嬉しいという感情が生まれます。舞台を成功させることが目的ではなく、舞台を創っていくプロセス



▲舞台を完成させるまでにみんなで話し合う場を作り、意見を出し合います。

スの中で、子どもたち自らが自分の感情に気づいていく活動です。

親子で参加するワークショップでは、お母さん達も一緒に遊んでもらい、子どもから出てきた言葉をしっかりと受けとめてもらいます。そこがコミュニケーションの原点なんです。実は日常の親子の会話って「早くしなさい」「○○くん1位ですぞいね」など一方的な指示や評価になっていることが多いんです。でも、子どもは自分の言葉を受けとめてもらえることで自己肯定感が得られ、親子の関係を高めることにもつながります。活動の中では、子どもだけではなく、子育てに悩むお母さんたちの声にも耳を傾けています。

想いが強い活動だからこそビジネスとのバランスを大切にしていきたい

子どもの孤立・孤独対策や多様性にも子どもたちの表現教育が良いとされ、文化庁や内閣官房、学校からの依頼も増えてきました。企業の新人研修や学校教職員向けの講師依頼もあり、このメソッドを基に、いずれは日本の教育にテコ入れができれば、という大きなビジョンもあります。

法人としての社会貢献型活動は助成金や補助金で成り立っていますが、ビジネスとしては収益も必要です。今後、子ども向けコンテンツは社会化事業、教育機関向けコンテンツは収益事業として成り立たせることができるよう、ビジネスの基本を学び直しているところです。



一般社団法人
プレイキッズシアター

playkidstheater@gmail.com

https://www.playkidstheater.jp

